

林野庁 令和5年度林業イノベーションハブ構築事業
 林業イノベーションハブセンター（森ハブ）
 第3回専門委員会 議事概要

作成日：2024年1月11日

日時	2024年1月11日 10:00~12:00
場所	デロイトトーマツ会議室 所在地：東京都千代田区丸の内三丁目3-1 新東京ビル7階 Microsoft Teams
議題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 開会 <li style="padding-left: 20px;">(1) 挨拶：林野庁研究指導課 ➤ テーマ別の実施状況について <li style="padding-left: 20px;">(1) テーマ1：新技術 <li style="padding-left: 20px;">(2) テーマ3：デジタル（コーディネーター派遣、デジタル分科会） <li style="padding-left: 20px;">(3) テーマ4：森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援） <li style="padding-left: 20px;">(4) テーマ4：森ハブ支援体制構築（森ハブチェックリスト作成） <li style="padding-left: 20px;">(5) テーマ5：森ハブ・プラットフォーム構築 ➤ シンポジウムでのピッチ登壇者選定について ➤ 令和6年度実施方針について ➤ 閉会
資料	資料1-1-1 テーマ1_新技術 資料1-1-2 技術リスト（令和6年1月11日時点） 資料1-1-3 技術リストバックデータ（令和6年1月11日時点） 資料1-2 テーマ3_デジタル 資料1-3 テーマ4_森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援） 資料1-4 テーマ4_森ハブ支援体制構築（森ハブチェックリスト作成） 資料1-5-1 テーマ5_森ハブ・プラットフォーム構築 資料1-5-2 森ハブ・プラットフォーム_ニーズ・シーズ調査結果 資料1-5-3 令和5年度林業イノベーション現場実装シンポジウムのご案内 資料2-1 シンポジウムピッチ登壇者選定案 資料2-2 シンポジウムピッチ登壇_シーズ提案資料 資料3-1 令和6年度林業イノベーションハブ構築事業

(以下、敬称略)

【議事概要】 ※資料記載事項は割愛

1. 開会

(1) 挨拶：林野庁研究指導課

2. テーマ別の実施方針について

(1) テーマ1：新技術

- 今後新たに技術リストに技術を追加する場合はデータソースやエビデンスを注記いただくと、新たに技術を利用したい場合に検討を進めやすいのではないかと。
- 林業の技術が他の分野にどう転用できるか可能性として示しておく必要がある。また、林業課題に対して他分野の技術を応用できる場合もある。災害の場合も同様で、基本的に平時の利用を想定しているが、有事の場合でも使える技術がある。技術リストに列を追加して有事の際使える技術に印をつけ、どのような使い方が想定できるかを記載すると関心・有用性が高まるのではないかと。

(2) テーマ3：デジタル（コーディネーター派遣、デジタル分科会）

議事無し

(3) テーマ4：森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援）

- 再造林に関しては、再造林率を上げたくても人手がなく難しい。造林保育の工程全般をいかに省力化するかは大きなテーマである。機械だけでなく、低コスト造林をテーマとして、苗木の本数自体を減らす、コンテナの大苗を植え下刈りの回数を減らすといったところまで切り込む必要があるのではないかと。
- 今回、（支援地域で）デジタルデータを使えるようにしたことは大きな進歩である。境界の明確化については所有者が高齢になり、境界が分からないことが増えている。そういった場合に境界を出せる方法についても今後検討いただきたい。
- アジア航測が、航空写真から自動的にここが境界ではないかというところに線を引くシステムを保有している。例えば、林齢、樹種の違い、間に道や広葉樹、カラマツが入っている等を自動判定するシステムがあるのでそういったものを活用できるのではないかと。
- 和歌山では森林クラウドシステムの利活用協議会を作ってそこにデータを貯めている。年会費1万円程度で参加すれば、森林組合でも事業体でも利用できるようになっている。作業を実施する際に明確化したものをフィードバックしている。昨年の8月から運用を開始している。
- （実証プロジェクトの展開 造林機械導入）について、すべて合理化・効率化に寄せられている。合理化・効率化からはイノベーションは起こらない。機械の進化、技術の進化、デジタルの進化に人がどう介在するか、ヒトの視点が重要である。削減した労働力の振り向け先についても、ヒトが合理化効率化の要素になっている。技術とヒト、両方の視点が必要である。
- コーディネーターに関して、外部のコーディネーターと地域のコーディネーター、コアプレイヤー3つのトライアングルがイノベーション成功のポイントである。他地域に展開するにあたって重要なポイントである。
- 林業DXは伐採届、流通までDX化できると日本の林業に大きな変革を起こすことが出来るのではないかと。

(4) テーマ4：森ハブ支援体制構築（森ハブチェックリスト作成）

- チェックリストの目的は現状の把握と行動計画の策定だが、できていることを書くと課題が見えなくなるので、評価点と残された課題を併記していくなどの主観と客観のバランスが担保できる仕組みがあったほうが良いのではないかと。誰が評価するかによっても変わってくるため、ステークホルダー全体がそれぞれで評価できる仕組みを作る等、一人の主観だけで評価することの無いようにしていただくことが重要ではないかと。

(5) テーマ5：森ハブ・プラットフォーム構築

- キックオフイベントの情報交換会は様々な企業や業種の方のお話を聞けてとても有意義だった。人数が多いと声が聞こえない、内容も自己紹介程度になるため、人数を少なくしたほうがよいと感じた。人数を少なくしたときに、戦略的に事務局サイドでメンバーを組む方が良いのではないかと。シーズ側の企業に意見を聞くのが良いのではないかと。
- キックオフイベントについて、多くの人が集まり期待が大きいと感じた。この熱量をどうやって維持していくかが重要である。分科会のメンバー同士でやり取りが活性化しているため、出会いの場を作って動かしていくためにエネルギーを投入していく必要がある。立ち上げまでは伴走型で各分科会をサポートする体制を作っていただくのがよいと考える。
- キックオフイベントの参加者の中でキックオフイベント第2部に残った参加者、その中からシンポジウムのシーズ発表の応募者に残っている方が一番関心を持っている方である。そこに注力するとマッチングが上がるのではないかと。
- 実証相手を探している企業があると思うので、どういう組み方を求めているか示されているとマッチングに繋がりやすいのではないかと。
- 中小企業に大学の技術を使ってもらう際は、補助金を紹介する。そういったことをやるとハードルが下がり使いやすくなる。

3. シンポジウムでのピッチ登壇者選定について

- 資料2-1 および資料2-2のピッチ登壇者選定について、事務局はこのまま対応を進めていただきたい。

4. 令和6年度実施方針について

- 森ハブの取組みが始まって3年になるが、イノベーションという感じがあまりしない。合理化やコスト削減になってしまっている。どういった林業をしていきたいかビジョンを掲げ、どのように実現するかという論法で議論できるとよいのではないかと。
- 実現可能性で議論すると、合理化・効率化に寄ってしまう。実現可能性は一旦置いておいて妄想部会のようなものを作って議論していくとよいのではないかと。また親和性が高い事業を行っている他省庁と連携を進めていくと良いのではないかと。

5. 閉会

以上